

公益社団法人 日本青年会議所 九州地区協議会

2021年度 会長意見書（参考資料）

一般社団法人八代青年会議所

柴崎 政俊

【はじめに】

胸に手を当てて考えてみて下さい。なぜ青年会議所に所属しているのでしょうか。もちろん人によって入ったきっかけは様々でしょう。では、なぜ入り続けているのでしょうか。途中で辞めたくなくなったことはありませんか。それでも続けている理由は何でしょうか。人脈、社業へのフィードバック、自己成長。様々な理由があるでしょう。人それぞれ答えは違って当然です。私の動機は単純です。今住んでいるまちが好きで、青年会議所の経験で得たものを、このまちのために使いたいからです。社会的地位、経済的成功、人を動かす動機は様々ありますが、何にも勝るものが愛であると私は考えます。

【九州地区協議会の役割とは】

戦後、「新日本の再建は我々青年の仕事である」として、48名の青年により東京青年商工会議所が設立され、青年会議所運動の灯がともされたことは周知のことです。その後も各地域で戦後復興が進み、九州内各地で青年会議所が新たに誕生する中、1953年6月に九州北部を中心に発災した集中豪雨が、地域に甚大な被害をもたらしました。各地の青年会議所が愛する故郷の復興に尽力する中、単一の地域だけでなく広域に連携する必要があることから、この九州地区協議会が生まれました。今年は年初からのコロナ禍により多くの青年会議所運動が再考を迫られる中、令和2年7月豪雨が発災しました。熊本県南部を流れる球磨川が氾濫、流域にかつてないほどの甚大な被害をもたらしました。今、九州地区協議会の存在価値・役割は何かを明確にしなければなりません。そもそもの存在理由は、各地青年会議所のためです。まずは、さまざまなツールを活かして各ブロック協議会、各地青年会議所との連携を日頃から密にしておくこと。そして、日本青年会議所との橋渡し役としての機能充実を図ること。さらに、九州広域としての経済発展、防災を含めたインフラ政策、地域に根差したSDGsの推進を行うことの3点です。今後も社会情勢の変化は目まぐるしく、昨日の状況が今日は違うことでしょう。能動的市民として常に時代に対応し、この愛する九州を持続可能な地域とするため、「愛・九州」と「持続可能な九州」という2つのキーワードのもと運動・活動を展開します。

【愛・九州×持続可能な九州を実現する経済政策】

おいしい農水産物、工場で作られる自動車・高付加価値半導体、各地にある温泉などの

観光資源。これらがバランスよく発展し、今や九州は一つの国としても成り立つ規模となっています。昨今の九州経済をけん引してきたのは、各都道府県の地域資源を活かしたインバウンド政策でした。しかしながら、2019年の九州への外国人入国者数は前年比で△17.5%と、8年ぶりにマイナスとなりました。日韓関係の悪化、クルーズ船寄港数の減少などが要因とされています。さらに、今般のコロナ禍で、今後のインバウンド需要の見通しは極めて不透明なのが現状です。もちろん経済は重要ですが、行き過ぎた経済成長至上主義は改め、内需主導型の持続可能でゆるやかな経済成長を考える岐路に立っているのではないのでしょうか。そもそも経済の仕組みからすれば、地域内でいかにお金が循環するかが重要です。昨年、九州電力が提供するプラットフォームを利用し、筑邦銀行が地域通貨「常若通貨」を試験的に発行しました。これまでも各地で地域通貨が発行されてきましたが、なかなか根付きませんでした。しかし、ブロックチェーン技術、5G技術といったインフラが出てきた現状をチャンスと捉え、九州内で流通する地域通貨の仕組みを考え提案することを、突飛な発想だとは思いません。例えば、SNSを使って誰かが地域の魅力を発信し、それを見た人が実際にその商品を買う、サービスの提供を受けるとなった時に、その情報の発信者に地域通貨ポイントが付与されるといった仕組みも考えられます。パートナーを選定して実証実験を行い、地域循環型経済の仕組み「九州地域通貨ポリシー」として関係各所へ提案を行っていきます。

【愛・九州×持続可能な九州を実現するインフラ政策】

国の政策により高速自動車網の整備が推進されて半世紀以上が経ちましたが、九州各地にはミッシングリンクが未だに存在し、新幹線網についても同様です。インフラを整備することは、生活の利便性向上、人の移動による経済波及効果と同時に、災害時の救援体制の確立という面もあります。災害について言えば平成28年熊本地震は、熊本城をはじめ熊本県内各地に大きな爪痕を残しました。また、令和2年7月豪雨では熊本県南部を中心に九州各地に甚大な被害が出ましたが、全国各地青年会議所の温かいご支援により、復旧・復興が進んでいます。九州地区協議会は、ブロック協議会、日本青年会議所との間に立つ存在です。常日頃から、各ブロック内担当者と連携を密にして災害発生時の迅速な支援体制の構築に努めます。さて、インフラと言えば空港も重要な拠点です。九州には各県に空港が存在し、それぞれ利用者数も全国的に見て比較的多い現状があります。しかしながら、コロナ禍による航空機の減便などで先行きが不透明になりつつあります。オランダの航空会社KLMは、昨年100周年を迎えるにあたり「フライ・レスポンシブリー（責任ある航空旅行）」というキャンペーンを展開しました。この中で、「毎回、会わないといけませんか」「代わりに電車を使用できませんか」等の問いかけがなされています。経済面、防災面、環境面を考えるにあたり、インフラ事業者全体での議論をする必要があると考えます。九州地区協議会として、高速道路事業者、鉄道事業者、航空事業者を巻き込んだ議論の場を設け、「九州インフラミックス」として国へ提言を行います。

【愛・九州×持続可能九州を実現する環境エネルギー政策】

昨年より日本青年会議所では日本一SDGsを推進する団体として新たな一步を踏み出し、九州地区協議会としても金融機関と連携してSDGs私募債の発行を実現するなど運動を展開してきました。SDGsには17のゴールがありますが、九州の地理的特性を考えたとき、エネルギー政策に目を向けるべきと考えます。周りを海に囲まれ、数多くの火山が存在し、急峻な山々からは川が流れる。九州に住む我々は、その恩恵を様々な形で享受してきました。しかしながら、高度経済成長期には経済が優先され、各地で公害問題が起きました。特に水俣病問題は、未だ最終的な解決には至っていません。東日本大震災の際には、原発事故により日本中で原発が停止したのは記憶に新しいところです。その後日本は旧来の火力発電所を再稼働させるなど対応してきましたが、環境負荷の問題から様々な議論を呼び起こし、国の再生可能エネルギー政策推進の契機となりました。九州はその地形や地理的特徴から、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等様々な再生可能エネルギーが活用できるポテンシャルがあります。発電効率を考えれば、大規模な施設を集約して電力を供給することは理にかなっています。しかし、持続可能性を考慮すれば、例えば住まいについては身近な再生可能エネルギーを使う自給自足を推奨し、産業用には既存の電力会社を使うなどの棲み分けが可能なのではないのでしょうか。各地青年会議所で実現可能な地産地消エネルギーを研究し、九州内の電力事業者、行政、住宅メーカーと議論を行い、「九州エネルギーモデル」として国へ提言を行います。

【愛・九州×持続可能な九州を実現する組織運営】

組織には、理念があり、目的があり、そのために動く人がいて、目的達成のために様々な手法を用います。青年会議所は明るい豊かな社会を目指し、全国で社会をより良くする運動を展開してきました。しかし、社会経済情勢の変化によって年々会員数は減少し、平均在籍年数も短くなってきています。集まって会議を行い、妥協なく熱い議論を行うことも重要ですが、あくまでも社業・家庭があつての青年会議所活動です。大事なものは、なぜ会議をやるのかという目的を明確にすることです。九州地区協議会では、他に先駆けてWEB会議を導入し、推進してきました。WEB会議にも最低限のルールは必要ですが、委員会活動については、例えば育児をしながらの参加を認めるなど柔軟化し、多様な意見を取り入れても良いでしょう。また、アイデアを出す会議と物事を決定する会議を明確に分け、前者ではリラックスした状況で行い、後者ではセレモニーの徹底、ロバート議事法の順守という青年会議所の会議としての基礎をしっかりと行うという棲み分けを徹底することも検討します。広報に関しては、団体としての事業運動を適時適切に発信していくことも必要ですが、新たな取り組みとして九州内のJCメンバーが365日地域の魅力をSNSで発信する「WE LOVE 九州キャンペーン」を展開し、私たちが郷土愛を持ち、地域を良くする運動を行っている団体であることを草の根から周知していきます。時代に合

わせて柔軟に組織を変え、本来の運動を行いやすくすることで、理念に共感する人々が自然と集まる団体へと昇華していかなければなりません。

【1年の運動を終えて】

胸に手を当てて考えてみて下さい。なぜ青年会議所に所属しているのでしょうか。九州内JCメンバー一人ひとりが自問自答し、答えを見つけ、地域のため、社業の発展のため、愛する家族の幸せのため、当事者意識を持ち行動を起こします。その行動は運動となり、JAYCEEを起点とした好循環の波紋が広がり、九州全体がさらに輝きます。九州地区協議会は各地青年会議所のために、出向していただいたLOMメンバーへの成長を約束し、常に進化を続ける組織であり続けます。

【SDGs 2030】

「2030年九州。持続可能な農林水産業が根付き、域内での食料自給率は100%を超え、おいしい農水産物が行き渡っている。平均年齢は100歳を超えるが、あらゆる年代に医療サービスが行き渡り、健康的な生活が確保されている。今やすべての人が持つ携帯端末を開けば、学校で受けるものと同じ教育をいつでも受けられ、社会人やリタイアした人々にもあらゆる種類の生涯学習の機会が用意されている。リモートワークが当たり前となり、女性も男性も一緒に育児や家事をしながら仕事ができる環境が整っている。5Gによるネットインフラは九州全体を覆い、スムーズなコミュニケーションが取れる。携帯端末で使えるアプリ「ぎゃん」は、九州内で使える地域通貨であり、他のSNSアプリと連動し、九州内で使う際に様々な特典が使える。高速道路網、新幹線網は完備され、九州各地へのアクセスに苦慮する必要もなくなった。新幹線は完全自動運転、自動車も一部自動運転レーンが敷かれている。九州外からの観光客は、整ったインフラのおかげで九州中を周ることができる。観光の目玉は、九州の上空を旋回する飛行船での周遊旅行。空から見ると九州は格別だ。飛行船はそのまま小型ドローンの発進基地にもなっており、宅配、農作業、経済データ収集等様々な用途に使われている。災害発生時の支援体制もハード面、ソフト面でしっかりと構築され、何かあれば迅速に動くことが可能だ。今や九州で使われる電力は再生可能エネルギーと従来のエネルギーが最適な形で利用されており、持続可能な先進モデルとして世界で絶賛されている。今日も九州は笑顔で溢れている。住み暮らす人々にとって永遠の故郷だ。」

【愛する九州のために】

私の実家では家業として代々魚問屋を営んでいました。しかし私が東京の築地市場で修業中に経済環境の変化に対応できず、倒産してしまいました。私は、八代が、熊本が、九州が好きで、地元での仕事を始める決断をし、2014年1月に八代青年会議所に入会しました。ここでの学びを、社会に還元する責務があると考えています。

青年会議所運動に終わりはありません。社会にはいつの時代も課題があり、その課題に真摯に向き合い、より良い社会を築いていかなければなりません。私たちJAYCEEは、この愛する九州のために日々切磋琢磨し、前を向いて全力で行動を起こす存在です。九州に住むすべての人々に感謝し、先達から受け継がれてきた九州をこれからもより良くする運動を一緒に続けていきましょう。